

平成 16 年度 事業報告書

平成 16 年 4 月 1 日から

平成 17 年 3 月 31 日まで

当財団法人は、産業廃棄物の適正な処理、その他廃棄物に関する各種事業を行うことにより、県民の生活環境の保全と公衆衛生の向上に寄与することを目的に設立された法人であり、適正な廃棄物処理に万全を期して県民に信頼される廃棄物処理センターとして受け入れを促進し、関係法令等を遵守した適正な処理を行うとともに、廃棄物の適正処理に関する情報の発信や啓発事業に取り組み、県民の快適な生活環境の向上に努めた。

1 一般事業

(1) 中長期経営計画の策定

産業廃棄物の受入量の増加に伴い、管理型最終処分場が平成 20 年度には埋立が終了する見込みであることから、平成 21 年度の供用開始を目指して、現処理場に隣接して第 期最終処分場を整備することとしている。

第 期最終処分場の整備に伴い資金需要の増大が見込まれることから、健全経営を目指して中期経営計画（平成 16 年度～平成 22 年度）及び経営改善計画（平成 16 年度～平成 45 年度）を策定した。

また、平成 17 年度から平成 19 年度までの 3 カ年間について、各年度ごとの具体的な行動目標を掲げたアクションプランも策定した。

(2) 情報公開

財団法人の組織や施設の概要、利用者・見学者への案内等について情報発信を行うため、平成 16 年 6 月 4 日にホームページを開設した。

その後、内容の充実を図るため、掲載内容を見直すとともに新規項目について情報発信を行い当財団法人の理解と利用者への便宜を図った。

主な掲載項目

- ・ 事業団概要、施設概要、利用案内、施設見学案内
- ・ 種類毎の受入基準、搬入予約、申込書等諸様式
- ・ 事業報告書、寄附行為、経営改善計画書

(3) 廃棄物の適正処理に関する啓発

保健衛生イベントにおいて、不法投棄の防止と最終処分場の現状やリサイクル製品推進事例、廃棄物サンプル等を紹介し、環境保全への意識高揚及びリサイクルの促進に取り組んだ。

また、啓発活動を充実するため、新たに啓発用パネルを 6 枚（A0 判）作成した。

ア 出展・展示の実績

- ・ 6 月 岩手県環境保健研究センター 特別シンポジウム
- ・ 9 月 江刺市保健衛生大会

イ 作成パネルの掲載内容

- ・ 廃棄物の定義と種類 ・ 産業廃棄物と一般廃棄物 ・ リサイクル事業例
- ・ 廃棄物の受入実績 ・ 環境測定結果（排ガス、処理水、地下水）

(4) その他視察等に対する啓発活動

県内外からの視察者（平成16年度920名）に対する当センターでの処理状況の説明や、電話等による廃棄物処理相談に対する処理方法の指導及びリサイクル事業への取り組み事例等の紹介などにより普及啓発活動を行った。

(5) 理事会開催

開催月日	会議名	開催場所	会議議題等
平成16年 5月28日	第28回理事会	岩手県民会館	1 平成15年度事業報告及び収支決算 2 資産の総額の変更 3 評議員の選任 4 規則の一部改正
平成16年 10月27日	第29回理事会	岩手県民会館	1 平成16年度上半期の事業報告 2 クリーンいわて事業団中期経営計画 3 クリーンいわて事業団経営改善計画
平成17年 3月7日	第30回理事会	岩手県民会館	1 平成16年度収支補正予算 2 クリーンいわて事業団中期経営計画書（アクションプラン） 3 平成17年度事業計画及び収支予算 4 平成17年度短期借入金の借入限度額 5 評議員の選任

(6) 評議員会開催

開催月日	会議名	開催場所	会議議題等
平成16年 5月21日	第11回 評議員会	岩手県民会館	1 平成15年度事業報告及び収支決算 2 資産の総額の変更 3 規則の一部改正
平成16年 10月15日	第12回 評議員会	岩手県民会館	1 平成16年度上半期の事業報告 2 クリーンいわて事業団中期経営計画 3 クリーンいわて事業団経営改善計画 4 役員の選任
平成17年 3月4日	第13回 評議員会	岩手県民会館	1 平成16年度収支補正予算 2 クリーンいわて事業団中期経営計画書（アクションプラン） 3 平成17年度事業計画及び収支予算 4 平成17年度短期借入金の借入限度額

2 廃棄物処理事業

(1) 適正な廃棄物処理

平成 16 年度は、240 日廃棄物を受け入れ、受入量は 52,875 トン(前年度比較 4,886 トン減)で、1 日平均受入量は 220.31 トン(前年度比較 17.38 トン減)となった。

この減少は、医療系廃棄物、廃プラスチック等の焼却処分を主とする民間の産業廃棄物焼却施設の影響を受けたことや木くずを燃料として活用するリサイクルが進んだことによる。

しかし、県民の環境保全意識の向上や排出事業者の廃棄物の多様化により利用件数は増加し、契約件数は平成 16 年度末で 6,572 件(前年度比較 840 件増)となった。

(別表 - 平成 16 年度廃棄物受入実績)

(2) 施設・設備の整備

ア 一部が風雨にさらされていた木くずを全量屋内保管とするため、木くず保管庫の増築工事を行った。

32,300 千円

イ 最終処分場における埋立廃棄物を適正に処理するため重機(トラクタショベル)を購入した。

16,900 千円

(3) 予防保全マニュアルの策定

焼却施設の運転については「日常作業標準書」、定期点検及び月例点検については、「設備機器点検表」により点検・修繕を実施しているが、その他の各年点検等については、修繕周期を特に定めていなかったことから、これまで培った経験を基に適正な修繕周期を定め効率の良い点検・修繕を実施することとし、運転管理に生ずる支障を未然に防止するための予防保全マニュアルを策定した。

3 第 期最終処分場整備事業

(1) 環境影響評価委託業務

産業廃棄物の受入量の増加に伴い、管理型最終処分場の埋立が当初の計画を上回る早さで進行していることから、今後の産業廃棄物の適正な処理を確保するため第 期最終処分場の整備を計画し、昨年度から環境影響評価調査を行いその結果に基づき環境影響評価準備書を作成し、縦覧するとともに説明会を開催した。

40,784 千円

(2) 土木施設の実施設計業務委託

最終処分場の変更(拡張)整備として実施する第 期最終処分場整備のため、土木施設に係る実施設計書を作成した。

22,000 千円